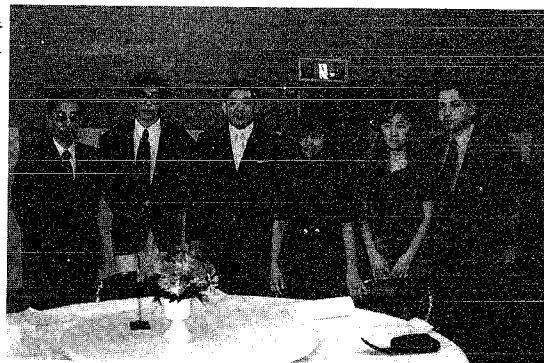


20歳の船出を祝う 平成4年度「成人式」

五月三日、憲法記念日に農環センターで、平成四年度の成人式が行われました。
会場の農環センターには、羽織、スーツ姿の男性、晴れ着姿の女性という華やかなもので該当者五十一人のうち、四十二人の新成人が出席し、



村長さんを中心に、ブラジルの方々

恩師、議会、教育関係者らを招いて行われました。
今年、ブラジルから来ていられる、モネチ・リカルドさんをはじめ五名の方々も参列され、国際色豊かなものになりました。

いつもよりいくぶん緊張した面持ちで式典に参列した新成人に、金子村長より「成人の日を機会にますます努力を積み重ね、知性を磨き、身体を鍛練し、立派な社会人になって下さい。」と激励がありました。

その後、新成人を代表し、長岡真樹さんより「成人としての自覚を認識し、新鮮な創造性と行動力をもって努力していきたい。」と誓いの言葉がありました。

式典終了後の祝賀会では、緊張もすっかりとれ、恩師からの祝辞や、友だち同士の近況報告などにぎやかなりうちに閉会しました。

また、日本の成人式に初めて出席されたブラジルの人も時間がたつにつれ、参列された方々と、とけあつていました。

新成人に贈る



教育長 関 弘 二 郎

このたび成人を迎えられ誠にめでたいと思います。心からお祝いし、将来の一層の発展を期待いたします。
成人を迎えたこれを機として、社会人としての責任をますます自覚し、行動されることを切望いたします。

沢論吉の心訓」として有名ですが、参考までに紹介します。心訓というのは、心の教え、つまり、心して守るべき教訓というような意味です。
一、世の中で一番楽しく立派なことは、一生を貫く仕事を持つことです。

むことです。
五、世の中で一番尊いことは、人のために奉仕して決して恩にきせないことです。
六、世の中で一番美しいことは、すべてのものに愛情を持つことです。
七、世の中で一番悲しいことは、うそをつくことです。
どれも、ごくあたり前のことを述べているにすぎませんが、よく読み味わってみると実に意味の深いことばです。

これからの社会は、科学技術の高度化、国際化、情報化、高齢化などにより、自由時間の増大、価値観の変化と多様化、家庭・地域の変化などが予想されます。各人が、生きがいや心の豊かさを求め、自発的な意思に基づき、生涯の各時期にわたり、学習・文化・スポーツ等の活動が求められてきます。

本来、教訓というものは、それを受けとる人によって、さまざまに解釈されるものです。これから新しい時代になっていきますが、素直な気持ちで、自分なりに読み味わって、自分の心の糧として吸収してほしいと思います。

「どう生きていかで、人間の価値はきまる」といわれていきます。「私が生きた」と言える人生を創造してください。
明治の先覚者で、慶応義塾の創始者である福沢諭吉は、若い人たちに、七か条の人生訓を遺しています。これは「福

二、世の中で一番はじめのこととは、人間として教養のないことです。
三、世の中で一番さびしいこととは、する仕事のないことです。
四、世の中で一番みにくいこととは、他人の生活をうらや



「おい、ちょっと
飲みすぎじゃね〜か」
「今日から成人、
まあいいじゃないの」



「しばらく見ないうちに
きれいになっちゃって！」
「やあ〜だ〜っ」